碧南市地域農業再生協議会 議事録

1 開催日時

令和7年4月28日(月)午後3時15分から午後4時まで

2 場所

碧南市役所7階 議員大会議室

3 現在会員数

会員23名、監事2名

4 出席会員数

会員21名、監事2名

小池 友妃子 (会長)	神谷 昌明 (副会長)	山中 力四郎	市古 昭子
黒田 実	長谷部 実	藤浦 利吉	金子 さか江
三島 孝二	石川 清勝	永井 是充	新美 康弘
金原 節子	加藤 浩孝	下島 良一	杉浦 孝明
磯貝 孝弘	山中 光弘	鈴木 良樹	野村 勝己
杉浦 英樹			
永坂 邦男 (監事)	原田 孝司 (監事)		

5 出席事務局

事務局長 (碧南市農業水産課長)	亀島 弘樹
事務局 (碧南市農業水産課課長補佐)	齋藤 静絵
事務局 (碧南市農業水産課農政振興係主事)	白井 寛人

6 オブザーバー

東海農政局愛知県拠点より2名

7 傍聴人

0名

8 議事とその結果

【事務局】

～本協議会の成立を報告～

【会長】

あいさつ

【事務局】

規約第13条第2項の規定によりまして、議長は会長とするため、ここからの進行につきましては会長にお願いいたします。

【会長】

それでは規約に基づきまして議長を務めさせていただきます。まず始めに議事録署名人を選任します。私から指名させていただいてよろしいでしょうか。

【会員】

異議なし。

【議長】

それでは今回の議事録署名人は、永井是充様と新美康弘様にお願いいたします。

【議長】

それでは議事に入ります。第1号議案「令和6年度事業報告及び収支決算について」事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】

～第1号議案説明～

ここで監査報告をお願いします。

【監事】

資料の9ページご覧ください。去る3月25日、監事2名による会計監査を行いました。通帳、帳簿等関係書類を監査しました結果、係数的な誤りはなく、適正に事務処理がなされていることを確認いたしましたので、ご報告させていただきます。幹事報告は以上です。

【議長】

ありがとうございました。ただいま事務局と監事からの説明が終わりました。これより質疑に入りたいと思いますが、何かご質問等ございますでしょうか。

質疑はないようですので、第1号議案につきまして、承認される方は挙手をお願いいたします。

挙手全員ということでございますので、第1号議案を承認いたします。続きまして、第2号議案「令和7年度事業計画及び収支予算について」事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】

～第2号議案説明～

【議長】

ただいま2号議案につきまして説明が終わりました。これより質疑に入ります。何かご質問等ございますか。

【会員】

中日新聞の2月6日の8面に水田活用交付金の要件の緩和ということで載っておりました。この記事によると米の生産調整、減反を廃止した後、作りすぎないように交付金で転作をしてきた。制度見直しは農家支援緩和、大幅な転換となるといった作物ごとの交付金額は、今後議論するというふうになっておいて、農地集約などの大規模化を進める米生産者を対象に支援し、輸出拡大を促進する姿勢も明確にしたと、こんなふうに今新聞報道がされているわけですが、水田利活用交付金の要件緩和というのは、碧南市にとってはどういう影響が起きると思っているのか、事務局わかりましたら、また農政局の方でもその辺のことがわかりましたら教えていただけますでしょうか。

【事務局】

令和9年度から水田政策を見直す方針ということで国の方が、発表しているんですけども、具体的な内容というのは、これからと言う段階ですので、現時点でビジョンは昨年通りとさせていただいております。今後、具体的な方向性がだんだん示されてくるとお思いますので、分かり次第、皆様の方にもお伝えさせていただきたいと思っております。東海農政局様の方から補足がありましたらお願いします。

【オブザーバー】

今の説明以上のことはありません。

【議長】

はい、ありがとうございます。他にございますでしょうか。

【事務局】

～その他 説明～

【会員】

国からの方針が、具体的にまだ出てないけど、新聞発表ではかなりの農地を集約して大規模化を進める生産者を対象に支援をすると、こういうふうに言っているわけですが、現状は米が不足して、そしてもっと生産をしなきゃならんと言うような状況になってきておるわけだけれども、碧南市でいうなら米を生産する農家が増える要件と

言うのは現状ではないわけで、なかなかその生産農家を作り出していくなんていう事は至難の技になっていくわけで。そうすると転作を今3年のローテーションで水田の面積からすれば3割じゃないけれども、転作ができるところは3割が転作を毎年毎年やっておるということになる、これがまあ正しかったのか。米の生産調整をしたことによって今の米不足というのは、私たちがやってきたことが正しかったのかどうかということが今後問われてくるんじゃないかと、全国的にも。碧南市は、全国の中のほんの一部なわけだけれども、でも、全国的にこういうやり方でやってきた結果が、今のこの米不足ってことになって、米不足になったから初めてこの米の価格が上昇したわけだけれども、今度は消費者の皆さんからすれば、農政や農家やそういうところは何やっと思ったんだということにもなってくるわけで、もう私たちのこういう会議が3割減反をやってきて、3年に1回は米を作らない方針でやってきたことが今後どうなっていくのか。米不足なら米を作れるようにしていかなきゃいかんわけだけど、米の方を増やす事は知らんのだと。そうすると、今米を生産している農家が増産できる体制を作らないかんんじゃないかと思うんですが、そういうことがされていくのかどうか。その辺がこの全くまだわからないっていうのは、今の状況からすると国は増産をする気はなく、このまま進んでいくという考え方なんではないでしょうか。基本的なところをもう少し、今日せっかく農政局から来ていただいて聞きたいもんだなあとは思いますがどうでしょうか。

【オブザーバー】

今、非常に大きな話題のことを言われたわけなんですけども、今日お見えの方もそうですし、こちらの碧南市の農家さんもそうだと思うんですけども、生産調整には国が昭和40年前半から皆さんからのご協力によりまして、ずっと協力していただいております。それではこちらの地域だけではなく、ほぼ日本の全国の地域で協力をしてきていただいております。既にご存知だとは思いますが、どうして生産調整するようになったかっていうのは、もちろんお米の消費量が減ってきたために生産調整をすることということが始まりなんですけども、まあこれは私が言うまでもなく、皆さんご存知だと思います。今、令和6年産と令和7年産と比べますと生産数量目標の目安というものが増えております。これは消費が上向いてるから増えているということではなく、その計算する時々により、昨年の場合ですと、昨年の6月末の在庫量って言うのが少なかったがために、令和6年産と比べて令和7年産の生産数量目標という

皆様方でお米を作っていただく面積が増えていると。しかし、お米の商品につきましては、毎年毎年少しずつではあるんですけども下がってきていると言う状況が変わりないものですから、どうしてもお米の消費が増えないことにはなかなか皆様方がお持ちの水田を希望通りに水稻の作付をしていただくということにはならないものですから、どうしても麦、大豆等の作付を協力していただいと。それで私が言うまでもなく、農業従事者の方も年々ではあります、少なくなり、また高齢化をされているというところで、これは去年今年に始まった話ではないんですけども、どのようにしてこの地域の農業を守っていくかというときには、やはり先祖代々のお持ちの土地を農家自らが作られるのか、それとも集約地域で担っていただけるオペレーターさんの方をお願いをして作っていただいと。これも言葉をお借りすれば、大規模化ということにはなるかと思うんですけども。大規模化につきましては当たり前であるんですけども、地域によってその規模が違うものですから、その地域に合った形で今後この3年先、5年先、10年先にどなたが農業を担っていただけるのかというところを皆様方にご検討していただきながら、人を育てる、面積を集める、そういうご努力が必要なかなと言うふうに思います。この令和7年につきましても経営所得安定対策に取り組んでいただくわけなんですけども、令和7年、8年とは前年の6年とそんなに変わりありません。もちろん今回のこの推進事業でもそうなんですけども、若干は減額はされてきてはいるんですけども、そんなに大きく変わりは無いのですが、令和9年からは水田農業直接支払の部分について変えようとしていると言うのは先ほど新聞に掲載されていたと言われたところなんですけども、申し訳ありませんが、今現在、令和9年からはこうなりますと言うところがまだ正直な話、決まってないところでもあります。いずれにしても国からの補助金は、ゼロになる事は無いかとは思いますが、減ってくことも事実だと思います。増えればいいんですけども、そういう状況にはありませんので、そういう状況の中でこの皆様方の農地をどのように守っていくのかというところが非常に重要なところじゃないかなと言うふうに思っております。あのお答えにはなっていないかもしれませんが、そういう考え方をお話させていただきましたので、よろしくお願いたします。

【議長】

はい、ありがとうございます。他にはございますか。

【会員】

4月19日は中日新聞の大見出しで米価格9.2%上昇と書いて備蓄米の流通は0.3%とこういうふうには米問題が大きくクローズアップをされて、連日スーパーでは備蓄米が出ても価格下がらないと。こういう話が世間の中では出ておって、ところが税金を使って米を作らないようにしてきた政策がね、国民の食料である米の価格にこんな形で跳ね返っていると。このまま備蓄米がどんどんどんどん放出されていくと、私が考えるにまた備蓄米を政府は積まなければならん。そうすると生産した米が同じ量だったら備蓄米を使っちゃったら、また備蓄米を政府が買い上げるってことになる、ますます流通する米がね、大変になると。備蓄はどうしても早く備蓄しとかんと何かあった時は大変だから備蓄するとこれは当然増産をしないと間に合わないような状況になっておるんじゃないかと私は思いますので、今後の政府の方針が早く定まって、3年に1回のやつを4年に1回のローテーションにする位の政策が1回打たれないとこの米問題が解決していかないんじゃないかなと私は感じております。ただ、碧南市のようなほんの隅っこの小さな面積がどうこうなる問題でもないんですが、こういう論議が積み重なって、そしてこの方向が出されていく。ただ、こういう機会にアメリカの米を輸入して、アメリカ産をどんどん使っていこうというふうになると、ますます米農家を守ることが難しくなっていくということで、輸入米の話もちらほらと出てきておりますので、やっぱり国内である程度の生産をしないと米が足らんなら日本がどんどん買えと関税を下げろと今でもゼロで関税をね。ミニマムアクセスはゼロでしょう。

こういう機会があつて、初めて話をしてことが進んでいくことじゃないかなと思いますので、ぜひ方向性をね、末端の私たちがとやかく言ってもどうにもならんことかもしれないかもしれませんが、私の意見としては、国民の大事な食料を私たちがここで審議をしとるんだという自覚と今までの積み上げが結局正しかったのか私は自分の気持ちの中でジレンマがあります。だから今後の米生産はもっと慎重にもっと需要と拡大を考えてやっていただきたいなと思っておりますのでよろしくお願いします。

【議長】

はい、ありがとうございます。ご意見として受けさせていただきます。

他にありますでしょうか。他にはないようですので、第2号議案につきまして、承認される方は挙手をお願いいたします。

挙手全員ということでございますので、第2号議案を承認いたします。

これで議案につきましては、全て審議を終えました。その他ということで何かございますか。

【事務局】

～その他 説明～

【議長】

ただいま事務局からの説明が終わりました。何かご質問等ございますでしょうか。

特段ないということでございますので、次にオブザーバーとして東海農政局の方にお越しいただいておりますので、昨今の状況等についてお話いただきたいと思います。

【オブザーバー】

～食料・農業・農村基本法の改正状況等について説明～

【議長】

ありがとうございました。何かご質問等ございますか。

【議長】

ありがとうございました。それでは、これをもちまして碧南市地域農業再生協議会を閉会いたします。ありがとうございました。

～午後4時00分 終了～